


ビジネスコミュニケーション学部 ビジネスコミュニケーション学科
学長（教授） 田代 俊孝 TASHIRO Syunkou
専門・活動分野 真宗学、生命倫理学、死生学
最新の研究内容
テーマ：親鸞教学の研究 仏教と生命倫理 ビハーンラ(仏教ホスピス)
研究/活動紹介
背景

医療やケアの現場では、治療方針の選択や終末期の過ごし方、誕生に伴う生殖補助医療、遺伝子治療など、「いのち」や「死」と向き合う意思決定が日常的に生じます。そこでは、医学的な判断だけでなく、本人・家族の価値観、宗教観、社会制度、倫理的配慮が複合的に関わります。ライフワークにしている真宗学（親鸞教学）を基盤に、生命倫理学・死生学の観点から、人が「生と死」をどう受けとめ、支え合い、尊厳ある生を全うできるかを探究してきました。特に、仏教の視点をもつ終末期支援として知られるビハーンラ（仏教ホスピス）を軸に、実践と理論の往還を重ねながら、現代社会における“生きることの意味”や“ケアの倫理”を問い直しています。


目的

親鸞教学に根差した人間観を手がかりに、医療・福祉・教育の場で求められる生命倫理の論点を整理し、死をタブー化せず学ぶいのちの教育の視点を社会に広げ、終末期の本人と家族の心の支えを含むケアを、宗教・倫理・臨床の接点から構想することにあります。加えて、大学教育（仏教の人間観等）を通じて、学生が自他の尊厳や他者理解を基盤に、地域や現場で実践できる素地を育むことも重視しています。


成果・効果や展望

これまでに、真宗学・死生学・生命倫理に関する研究成果を学術的に蓄積するとともに、ビハーンラ（仏教ホスピス）をめぐる知見を通じて、終末期における本人の意思と尊厳、家族支援、そしてケアの担い手のあり方を多角的に提示してきました。今後は、医療・福祉の現場での倫理課題（意思決定支援、看取り、ケアの質、支援者のケア等）を、仏教思想と生命倫理の双方から整理し、地域社会における対話と学びの場づくり（公開講座・研修・連携活動等）へと接続していくことが期待されます。大学の建学精神にも通じる“いのちの尊厳”と“相互敬愛”の視点を、教育・地域・臨床の現場に橋渡しする研究として発展が見込まれます。

産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

教理研究とともに、その実践的展開の研究が必要と考えます。その立場から仏教と医療との関わりをライフワークとして研究しています。公開講座や各学会等で講演を行っています。

学会・経歴

- ・日本インド学仏教学会(元理事)
- ・真宗連合学会(参与)
- ・日本生命倫理学会(元評議員)
- ・日本仏教学会
- ・真宗教学学会(元委員)
- ・東海印度学仏教学会(元理事)
- ・三重真宗教学学会(会長)
- ・中部人間学会(会長)
- ・ビハーンラ医療団(代表)

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp